

校長通信「つぶやき」 佐伯市立鶴谷中学校 校長 渡邊和彦

令和6年7月2日 第15号（通算第70号）

○危険な場所で遊ばないで！

危険な場所で遊ばないよう、学校では指導します。遊泳に関してもそうです。けれど、子どもたちが放課後や休日どこで遊び、何をしているか、全て把握しているわけではありません。万が一、大きな事故や命が失われたとき「学校ではどんな指導をしていたのか」が問われます。「指導をしたのだから、学校に責任はなく、自己責任であり、知りませんよ」となるはずありません。「防ぐ方法はなかったのか？指導が十分だったのか？」ということはその後も問われることになり、ご家族はもちろん関係の職員は、責任を感じ苦しみ続けることになるでしょう。だからこそ「止めときなさい、近づくな」と言い続けるしかないのだと思います。

「学級や学年で子どもたちが作ったSNSのグループ」も似たような問題をはらんでいます。トラブルが発生するのは容易に予見できます。だから、危険な場所と同じように、「近づかない方が良い」と思います。グループに入るにしても「9 to 7ルール」をご家族と協力して守り、電源を切るなり、チャットから抜けるなりすれば、リスクを回避できる可能性は高くなります。明日は1学期末の学級懇談会です。こんな時こそ学級担任を交え「グループラインの問題」や「我が家の9 to 7ルール」について話し合って欲しいと思います。

「スマホを持たせたのは親なのだから、スマホにまつわる問題は家庭の問題だ！」などと思っているわけでもありません。スマホがない時代でも、他人を誹謗中傷するような落書きが、机やトイレの壁や交換ノートにあったり、電話で陰口や悪口の会話が交わされていた時代もありました。生徒達の人権が脅かされ人間関係で苦しんでいるのであれば、解決のために力を尽くす必要は、間違いなく教員にもあります。「SNSで起こっている問題は教室で起こっている問題の縮図である」可能性が高いからです。ただ、教員だけでは困難です。ご家庭のご理解と協力が必要だと痛感しています。

私も4人の娘達を育てました。問題がないわけではなく、たくさん悩み、焦り、心配してきました。ただ、携帯やスマホを持たせたのは高校生になってから。これは、良い判断だったなと思っています。彼女たちがある程度の強さとしなやかさを身につけていた年齢だったから。自律できる年齢だったと思います。明日は大分県警佐伯警察署生活安全課の方が、ネットにまつわる危険性などについて「子どもたちを加害者にも被害者にもしないため」の視点で話してください。エアコンの効いた教室で視聴して頂きたいと思い、ウェブ配信にしました。教室には椅子が足りません。もし必要でしたら、ポータブルな椅

子でも持ち込んで頂ければと思います。よろしくお願いたします。